



発行  
日本共産党  
寝屋川市委員会  
072-823-0058  
FAX: 823-4336  
No. 3467

寝屋川市会議員

**中林かずえ**  
宝町 4-33  
090-3944-8385  
寝屋川市会議員

**松尾信次**  
下木田町 12-6  
090-3056-9924  
寝屋川市会議員

**西田まさみ**  
石津中町 30-3  
090-9713-3588  
前寝屋川市会議員

**太田とおる**  
高柳 2-49-2  
080-3818-0722

# 市内に1箇所しかない登校支援教室の増設を

## 不登校の児童生徒への支援の拡充を

### 12月市議会西田まさみ議員が質問



一般質問する西田まさみ議員 = 14日

12月市議会一般質問で、西田議員は不登校、子ども食堂などについて質問しました。  
文部科学省が公表した昨年度、全国の小学生で30日以上欠席した不登校の児童・生徒の数はおよそ29万9000人。10年連続で過去最高を更新しました。このうち小学生が10万5112人で、中学生が19万3936人です。  
本市の、不登校の小中学生は、市によると小中学生とも全国と比べて大きく増えているという感じはなく、横ばい、微増という状況です。

し、不登校の子どもたちにも、授業のライブ配信や双方向での学習支援を行い、そのうちの3割の子どもがオンライン授業に参加しているとのこと。  
また、旧明徳小学校跡の総合教育研修センター内に、登校支援教室があり、ここに約40人の小中学生が通い、基礎学力をつける取り組みや様々な体験活動を通して登校状況の改善を目指すとともに、人間関係の回復や自立

私は、市民会館の近くにあるフリースクールを見学しました。3階建てのビルの1室にあるこのフリースクールでは、「学校がしんどいと感じる子へ。自分に合った学び方を見つけませんか？」と呼びかけ、一人一人を尊重し、自立と共生を育てるフリースクールとのことでした。  
子どもたちは、その子にに応じて週1回から週4回通っているようで、料金は、通う回数によって変わります。保護者の負担を考え、企業の支援を受けて、低く抑えられているようでしたが、運営は大変とのこと、国や

自治体からの支援があればありがたいのですが」とスタッフが言っておられました。  
学校だけではなく、学校以外の場所、いろんな選択肢が不登校の子どもや保護者には必要ではないかと考え、次のことを質問しました。  
●(質問) 市内1か所しかない登校支援教室を増やすべきではないか。  
◆(答弁) 市の登校支援教室の増設については、全ての市民の利便性を考えたターミナル化構想をふまえ、新たな活動場所を検討するとともに、全校に設置している校内登校支援

登校支援教室のある総合教育研修センター  
への支援を行っていません。  
また、学校に行きた



## 市としてフリースクールへの支援を求める

教室の利用と合わせて、不登校児童生徒の学びの場の確保を図ってまいります。

●(質問) 市として、フリースクールへの支援ができないか。  
◆(答弁) フリースクールについては、市単独の支援は考えておりません。今後、国や府の動向を注視してまいります。

西田議員は、再度、登校支援教室の増設と、フリースクールに通う子どもたちの家庭への支援を求めました。

子どもたちは、その子にに応じて週1回から週4回通っているようで、料金は、通う回数によって変わります。保護者の負担を考え、企業の支援を受けて、低く抑えられているようでしたが、運営は大変とのこと、国や自治体からの支援があればありがたいのですが」とスタッフが言っておられました。  
学校だけではなく、学校以外の場所、いろんな選択肢が不登校の子どもや保護者には必要ではないかと考え、次のことを質問しました。  
●(質問) 市内1か所しかない登校支援教室を増やすべきではないか。  
◆(答弁) 市の登校支援教室の増設については、全ての市民の利便性を考えたターミナル化構想をふまえ、新たな活動場所を検討するとともに、全校に設置している校内登校支援



# 「1回7000円では足りません」 子ども食堂に実態にみあった支援を

本市で現在行われている子ども食堂は、16か所、うち13か所が市から支援を受けています。

1カ月に1回開催し、1回10食以上で支援金が支給されますが、一律7000円ではなく、食数に応じた支援にしておられないかというのが、運営団体の要望です。

子ども食堂によっては、1回に50食から80食の食事を提供しているところがあり、7000円では、材料費の一部にしかならず、不足分は、カンパや運営団体の持ち出しとなっています。

ある子ども食堂では、ロコミで利用者が増え、今の体制では対応しきれず、新規の利用を待たせてもらっているといえます。



これらのことから、西田議員は、子ども食堂への支援金の増額を求め、市の見解を質しました。

◆(答弁) 子ども食堂への増額については、提供食数に応じた加算措置など改善の余地はあると認識しておりますが、子どもの居場所づくり・子どもの見守りという本来の事業目的や利用実態を踏まえ、適切な支援のありかたについてもあわせて検討が必要であると考えております。

## 香里園駅周辺へ公共施設の設置を

香里園駅周辺に市民が集うことのできる公共施設の設置について、たくさんの方から要望が寄せられています。

以前、農協会館(ポピーション)にあった男女共同参画センター(ふらっとねやがわ)は、香里園駅の高架化事業により、寝屋川市駅前の産業振興センターに移転しました。フレスト香里園店の1階にあった、ふれあいプラザ香里も高架化事業によりなくなり、男女共同参画センターは、ロビーが広く誰でも自由に使うことがで

きました。会議室、研修室などもあり、サークルなどが会合に利用していました。ここが無くなり、それまで会合などで利用していた人は、「寝屋川市駅前まで行かなくてはならず、不便になった」との声がありました。

また、ふれあいプラザ香里は、市民のための交流サロンとして、定期的に様々なイベントが行われていました。「ふれあいプラザ香里」が無くなり、絵画、書道などをされていた市民から、「展示する場所が無くなって残念」

との声が聞かれました。これまでであった施設が香里園駅近くでは、高架化事業に伴い、移転、閉館しています。高架化事業完了に合わせ、公共施設が設置されたとしても、工事完了まで10年以上かかるともいわれており、「10年も待てません！」と声があがっています。

西田議員は、京阪の高架化事業の完了を待たずともなく、地域住民から多くの声があがっている香里園駅周辺の公共施設の設置について強く求めました。

## イオン跡地の施設について

緑町にあった、イオンモール寝屋川店。2016年に閉店され、2021年4月から解体工事が始まり、2023年3月に解体工事が完了し、今は更地となっています。

昨年の夏ごろに、地元「イオンタウン寝屋川」が建設されるといってお話が始まりましたと聞いていました。

しかし、まだ工事が始まる様子はありません。地域の方から、「買い物に不便で困っている。食料品や日用品を扱うスーパーなどの建設を早く進めてほしい」という声があがっています。

また、西田議員が以前行ったアンケートでは、スーパーはもちろんのこと、銀行などの金融機関、郵便局、市役所出張所などの設置を求める声があがっていました。

そこで西田議員は、イオン跡地の施設についてどのように協議がすすめられているのか質問しました。

市は、「現下における社会情勢や経済、景気の動向による建築資材の高騰や人件費の上昇により、イオングループにおいて再度、店舗内計画を検討されている」と答弁しました。

## 議員誌



西田 まさみ

京阪バスの一部路線廃止が公表され、廃止予定の地域住民に知らせるチラシを作成し、路線のバス停近くの住宅に配付しました。

そのチラシを「こんなになった方から、電話やラインでご意見や要望が寄せられています。80才になるという女性からは、「足を悪くして、長い距離を歩くことができなくなった。買物や通院にバスを利用している、バスが無くなったら外出できなくなる、なんとかバスを残してもらえないだろうか」と切実な声が届きました。

を見て、ラインさせていただきました。私は駅まで家が離れていて雨の日など、よく京阪バスを使わせて頂いていたので継続してほしいと思っています」という声も。

香里園駅前で京阪バスの一部路線で廃止について宣伝していた時に、廃止予定のバスの利用者が、配っていたチラシを受け取りに来てくださいました。

市は、利用者の影響を最大限抑える代替案を検討しています。

日本共産党議員団も市民の足を守るため頑張ります。

「京阪バスのチラシ